

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 (平成27年度第2回)

日時：平成27年8月31日（月）午後3時30分～午後5時
場所：ホテルモナーク鳥取 4階「大山の間」

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

(1) 予選審査結果について（資料1）

4 議 題

(1) 議案第1号

第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園実施計画について（資料2）

5 その他

(1) 「HANDSIGN SCHOOL PROJECT」について（資料3）

(2) 今後の日程について（資料4）

6 閉 会

第2回 全国高校生手話パフォーマンス甲子園 本選出場チーム 一覧 (予選審査結果)

【①地域ブロック枠(6チーム)】※各ブロックで最上位チームを選出

ブロック名	都道府県名	高校名	得点	出場回数
北海道・東北	北海道	石狩翔陽高等学校	179	2回目
関東	神奈川県	二俣川看護福祉高等学校	172	初
中部	石川県	田鶴浜高等学校	181	2回目
近畿	奈良県	奈良県立ろう学校	187	2回目
中四国	鳥取県	鳥取聾学校	165	2回目
九州・沖縄	沖縄県	真和志高等学校	171	2回目

【②得点順枠(13チーム)】※①を除く上位13チームを選出

ブロック名	都道府県名	高校名	得点	出場回数
近畿	三重県	三重高等学校 松阪工業高等学校 相可高等学校	185	2回目
近畿	三重県	久居高等学校	168	初
九州・沖縄	福岡県	三井高等学校	167	2回目
関東	東京都	野津田高等学校	164	初
九州・沖縄	熊本県	熊本聾学校	164	初
中部	山梨県	身延山高等学校	163	初
関東	東京都	クラーク記念国際高等学校東京キャンパス	162	2回目
関東	神奈川県	平塚湘風高等学校 鹿島学園高等学校 神奈川工業高等学校	162	初
近畿	京都府	京都府立聾学校	162	初
中四国	鳥取県	境港総合技術高等学校	162	2回目
近畿	大阪府	松原高等学校	160	2回目
中部	愛知県	杏和高等学校	157	初
関東	東京都	大泉桜高等学校	150	2回目

【③開催地枠(1チーム)】※①・②を除く鳥取県の最上位チームを選出

ブロック名	都道府県名	高校名	得点	出場回数
中四国	鳥取県	鳥取城北高等学校	136	初

[本選の発表順]

順番	都道府県名	高校名	選手宣誓
1	大阪府	松原高等学校	
2	愛知県	杏和高等学校	○
3	東京都	大泉桜高等学校	
4	熊本県	熊本聾学校	
5	鳥取県	鳥取城北高等学校	
6	山梨県	身延山高等学校	
7	鳥取県	境港総合技術高等学校	
8	神奈川県	平塚湘風高等学校 鹿島学園高等学校 神奈川工業高等学校	
9	東京都	クラーク記念国際高等学校東京キャンパス	
10	京都府	京都府立聾学校	
11	石川県	田鶴浜高等学校	
12	沖縄県	真和志高等学校	
13	鳥取県	鳥取聾学校	
14	神奈川県	二俣川看護福祉高等学校	
15	東京都	野津田高等学校	
16	北海道	石狩翔陽高等学校	
17	三重県	三重高等学校 松阪工業高等学校 相可高等学校	
18	奈良県	奈良県立ろう学校	
19	福岡県	三井高等学校	
20	三重県	久居高等学校	

第2回 全国高校生
手話パフォーマンス甲子園

実施計画（案）

【平成27年8月31日現在】

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

(赤字) 下線部が前回からの変更点

目次

I	参加チーム募集
II	審査員、司会者及びゲストパフォーマー
III	審査基準
IV	観覧者募集
V	大会運営	
1	大会スケジュール
2	会場計画
3	運営体制
4	イベントバリアフリー

I 参加チーム募集

1 参加資格

- (1) 平成 27 年度に高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）又は特別支援学校高等部に在籍していること
- (2) 手話パフォーマンス甲子園（以下「本大会」という。）に出場することについて、在籍する学校長の推薦を得ていること
- (3) 本大会に出場するに当たって、原則として在籍する学校の教職員が引率できること
- (4) 本大会の本選の全日程に参加できること

2 本選出場チーム数

応募チームの中から予選審査を通過したチームが本選に出場することとし、出場チーム数は 20 チーム程度とする。

3 チーム編成

1 チームの編成は、同一校又は複数校で編成する連合チームの生徒及び引率者とし、生徒は 20 人以内、引率者は 10 人以内とする。なお、同一校からの複数チームの応募は認めるが、本選に出場できるのは予選審査で同一校中最上位であったチームのみとする。

4 手話パフォーマンスの内容

- (1) 手話を使った歌唱、ダンス、演劇、コント、漫才などのパフォーマンスで、表情も含め手話を正確に使いながら、伝えようとする意志をしっかりと持ち、工夫された演出や構成と豊かな表現力により演じられるものとする。
- (2) 演技時間は、8 分以内とする。
- (3) 机・椅子などの簡単な小道具やスクリーンの使用は認めるが、準備に時間を要する大道具、舞台装置、背景等の設営は認めない。
- (4) 舞台の有効スペースは、間口 15 メートル、奥行 9 メートルである。なお、客席から手話や表情が見やすい範囲は、間口 12 メートル、奥行 6 メートル程度であるので、留意すること。

5 審査方法

- (1) 主催者が委嘱した審査員が審査及び採点を行う。
- (2) 審査員は、予選審査 4 名、本選審査 6 名とし、審査員の中から主催者が審査員長を選出する。
- (3) 予選審査は、応募チームが提出した動画により審査員が行う。
- (4) 予選及び本選の審査基準、採点方法、演技時間の計測方法等は、別途定める。

6 応募方法

平成 27 年 5 月 11 日(月)から同年 7 月 10 日(金)（必着）までに、次に掲げるものを提出すること。

- ① 参加申込書
- ② 学校長推薦書

③ チーム紹介文及び選手集合写真

④手話パフォーマンスの動画（予選審査用。3分以内。）及び字幕用テキストデータ

7 応募先・問合せ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目 220 番地

鳥取県庁障がい福祉課内 手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局

電話：0857-26-7682 FAX：0857-26-8136 Eメール：s-koushien@pref.tottori.jp

8 参加料

無料

9 出場チームへの助成

出場チーム（選手及び引率者）に、次のとおり、交通費及び宿泊費の一部を助成する。

① 交通費（領収書必要）

実費相当額を助成。（1チーム当たり 250,000 円を上限とする。）

② 宿泊費（領収書必要）

実費相当額を助成。（1チーム当たり 50,000 円を上限とする。）

10 募集広報

広報ツール	種類	内容
インターネット	ホームページ運営	・公式ホームページに情報を随時掲載
	ソーシャルメディア等の活用	・ Facebook, twitter, LINE に情報を随時配信 ・ YouTube に前回大会の動画を掲載 ・ YouTube に大会 PR 動画を掲載
紙媒体	開催要項、募集チラシの送付	・ 全国の全ての高等学校、特別支援学校に送付 ・ 各都道府県障がい福祉担当課、教育委員会に送付 ・ 各都道府県全日本ろうあ連盟加盟団体に送付
	ポスターの掲示	・ 県内の公共施設、観光施設等へ配布、掲出依頼
誌面紹介		・ 季刊みみ 147 号(2015 年春季号) 特集記事掲載 ・ 季刊みみ 148 号(2015 年夏季号) チーム募集案内
ディスプレイ広告		・ 山陰 JR 主要駅にてディスプレイ(電子看板)広告
マスメディアの活用		・ 時事通信の官庁速報メールマガジンへの掲載
各種イベントでの PR 活動		・ 全国ろうあ者大会ほか、各種大会等での PR
個別勧誘活動		・ 中国地方各県に訪問の上、参加協力要請 ・ 手話言語条例制定市町に訪問の上、参加協力要請
パブリシティ		・ 開催準備状況等を随時、プレスリリース

Ⅱ 司会者、審査員及びゲストパフォーマー

1 司会者

(1) 演技司会

	氏名	職名等
①	はやせ けんたろう 早瀬 憲太郎 氏	ろう者 ろう者として学習塾「早瀬道場」を設立し、塾長としてろう児の国語指導等を行っている。 映画「ゆずり葉」の脚本・監督。 2015年3月まで、NHK「みんなの手話」の講師として永年に渡り出演。
②	いまい えりこ 今井 絵理子 氏	聞こえる人 1996年SPEEDとしてデビュー。 2008年には日本テレビの「24時間テレビ」に出演し、聴覚障がいのある息子と前向きに生きる姿を公表。 2010年4月から「みんなの手話」の6代目司会を務めた。



①早瀬 憲太郎 氏 (左)



②今井 絵理子 氏 (右)


(2) 総合司会

	氏名	職名等
	おおき こうじ 大木 浩司 氏	NHK鳥取放送局放送部副部長 アナウンサー 1997年NHKに入局。 福井放送局、津放送局、東京アナウンス室、水戸放送局、広島放送局を経て、2014年にNHK鳥取放送局に赴任。 現在、同局放送部の副部長を務める。

2 審査員

	氏 名	職 名 等
①	<p>【審査員長】 しょうざき たかし 庄崎 隆志 氏</p> 	<p>演出家・俳優 ろう者 19歳でプロ劇団デフ・パペットシアター・ひとみの旗揚げに参加。その後、代表・演出となる。 松山善三演出の『赤い椿の物語』出演。 『オルフェ』、『曽根崎心中』『遠野物語』主演など、俳優として表現方法を探求しながら演出・脚本も手掛ける。以来、全国各地780ヶ所で2000回以上、ヨーロッパ、アメリカ、アジア各地など海外14ヶ国で公演。 2005年、デフ・パペットシアターひとみ退団後も、公演プロデューサー、そのかわら大学などでワークショップの講師としても活動。 2009年、映画『ゆずり葉』（全日本ろうあ連盟製作）主演。 2010年、横浜文化賞・文化芸術奨励賞の受賞など、多くの受賞歴があり、ろう者の俳優の第一人者として活躍中。</p>
②	<p>きだ 貴田 みどり 氏</p> 	<p>女優 ろう者 生後まもなく難聴になるも、3歳からクラシックバレエを始め、身体表現豊かな子供時代を過ごす。 2005年、高校2年生で第22回手話スピーチコンテストに出場し、難聴の立場の思いをスピーチし第2位を獲得。 その後聴力が下がり失聴。 大学在学中から女優として活動開始。 2009年、映画「ゆずり葉」出演。 2011年～、NHK「みんなの手話」出演。 現在、テレビ、舞台などで幅広く活動中。世界各国の手話をいくつか習得。</p>
③	<p>こなか えいいち 小中 栄一 氏</p> 	<p>全日本ろうあ連盟副理事長 ろう者 NPO法人ろう教育を考える全国協議会理事長 社会福祉法人富山県聴覚障害者協会理事 富山県聴覚障害者センター施設長 富山市聾啞福祉協会会長 1976年 ろう学校教員となる。富山県立高岡ろう、富山ろうにて勤務 1977年～ 富山県ろうあ福祉協会理事となり、ろう運動に関わる。 1982年～ 財団法人全日本ろうあ連盟理事 (文化部、労働対策部、手話通訳対策部、事務局長を経て、現在は副理事長) 2004年3月 ろう学校教員を退職し、富山県ろうあ福祉協会の職員となる。 2005年7月 富山県ろうあ福祉協会を解散し、社会福祉法人富山県聴覚障害者協会発足。引き続き、社会福祉法人富山県聴覚障害者協会の職員も務める。 2007年1月 富山県聴覚障害者センター開所施設長となる。 趣味は、読書(マンガも)、字幕付のテレビ番組を楽しむ。</p>

④	<p>みうら つよし 氏 三浦 剛 氏</p> 	<p>俳優 聞こえる人 1993年に奈良を中心に活動する劇団 MisU・SJr に入団。 1998年にキューブ・リコモーションに所属してTVドラマで本格的に俳優デビューをする。 TV・映画・CMなど数多く出演し、2001年に演劇集団キャラメルボックスにも入団し舞台にも多数出演。 2007年には元 TEAM 発砲・B・ZIN の西ノ園達大とアカペラバンド Sugar Style Spirit の悠晃の3人で歌と芝居とのコラボレーションユニット「3☆COLORS」を結成し活動、そのグループで沢山の手話アクトソングも披露している。 プロ野球横浜 DeNA ベイスターズ投手の三浦大輔は2歳上の実兄。 妻は、ろう者で女優の忍足亜希子。</p>
⑤	<p>みと まなみ 氏 水戸 真奈美 氏</p> 	<p>歌手 聞こえる人 宮城県の学生時代、聴覚障がい者との出会いから町の手話講座に参加し、手話の楽しさに気づく。 上京後、「自分の声が聞こえない方々にも気持ちを伝えられたら・・・」と思い手話を付け始める。 「手話」がキッカケで多くの出会いと気づきを得ることができ、「手話」というコミュニケーションのおかげで引っ込み思案の性格が180度変わり、積極的に行動できるようになる。 そんな人生を変えてくれた「手話」の魅力を伝えながら、障がい関係なくみんなと一緒に楽しめる空間・みんなが暮らしやすい社会を目指し、活動している。 2010年4月にリリースされた「Live the Dream」で全国デビュー。 「Wedding Road」は、2011年3月の東日本大震災において、南三陸町で防災無線により避難を呼びかけ続けてお亡くなりになった遠藤未希さんに捧げた歌として、テレビや新聞各紙に取り上げられ話題となった。 現在は、「命」や「生きる力」をテーマに出会いから学んだ大切なことを伝える講演活動を行うと共に、自身主催の手話サークルや震災支援活動も行っている。</p>

⑥	佐分利 育代 氏 	<p>鳥取大学名誉教授（元鳥取大学地域学部附属芸術文化センター長） 鳥取県女子体育連盟会長 聞こえる人 35年間、鳥取聾学校とのダンス創作に関わった。それを通しての聴覚障がいのダンス学習に関する著書、論文多数。 1975年に鳥取大学に赴任後、40年間にわたって舞踊の研究と教育に尽力された。研究テーマは、舞踊創作、舞踊教育、障がいとダンス、インクルーシブ・ダンス。2015年3月に同大学を退職された。また、様々な年齢、様々な個性の人たちが一緒に、それぞれの作品を発表するダンス公演を、鳥取市民のサークル『ダンスコング』のメンバーと開催されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「モダンダンスアピール展」昭和54年－平成15年 ・「こころとからだのharmony」平成16年-平成20年 ・「ダンスポケット春」平成18年から ・「ダンスポケット秋」平成21年から <p>その他にも、「ダンスポケット春」の開始を機にインクルーシブ・ダンス作品を毎年一作ずつ発表されるなど、個を発揮しながら共生を体験できるダンスの場を広げることをモットーに、芸術文化に積極的に取り組まれている。</p>
---	---	--

【予選審査会の審査員】

上の審査員のうち、以下の4名とする。

庄崎 隆志 氏（審査員長）
小中 栄一 氏
水戸 真奈美 氏
佐分利 育代 氏

3 手話パフォーマー（ゲスト演技）

HANDSIGN

(ハンドサイン)

リーダーTATSU (タツ(ボーカル、ダンス))、SHINGO(シンゴ(ボーカル、ダンス))、ROY(ロイ(ダンス、アクロバット))、JiN (ジン(ダンス、コレオグラフ))、OzA (オザ(ダンス))の5人組ボーカル&パフォーマンスグループ。

HANDSIGN は他にはないオリジナルスタイルで観客にメッセージを伝えるボーカル&パフォーマンスグループである。

音楽やダンスで全ての人達に笑顔になってもらえるように、老若男女問わず楽しめるようなLIVE空間を追求し続けている。

2005年・手話ダンスグループ HANDSIGN(ハンドサイン)を結成。

2009年・NYアポロシアターコンテスト「アマチュアナイト」で初優勝。

2010年・アマチュアナイト公認パフォーマーとなる。

2011年・テレビ出演、都内電車内モニターにて手話とダンスを取り入れた動画コンテンツが6ヶ月間配信される。

2012年・カンボジアへダンス支援活動プロジェクトに同行。カンボジア内学校設立や、各地でパフォーマンス活動をし、オリジナル楽曲を制作。

2013年・ろう者のオリンピック「デフリンピック」日本選手団応援ソングを制作し、デフリンピックを広める活動を精力的に展開。

2014年・地元神奈川県の中学校、高校50校を回って手話エンターテイメントの角度から広げようと目標を立て、LIVE活動を続けている。第14回全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会のクライマックスイベントに参加。



【第2回大会公式テーマソング】

HANDSIGN「友達」

⇒ 大会のフィナーレに、HANDSIGN が大会テーマソングを手話を交えながら歌唱。出場選手を巻き込んで、大会の感動的なフィナーレを演出する。

- スクリーンに歌詞の字幕と手話を放映し、曲を知らない（又は聞こえない）来場者にも歌詞の意味を分かるようにして、少しでも会場全体に感動の輪を広げたい。
- 感動的なフィナーレを迎えることで、出場選手等の記憶に残る大会を創造する。

Ⅲ 審査基準

予選審査実施要領

1 実施日

平成 27 年 7 月 29 日 (水)

2 審査員

審査員の構成は、ろう者 2 名及び聞こえる人 2 名の 4 名とし、このうち 1 名を審査員長とする。

3 審査方法

4 の採点方法に基づき、各審査員が各チームの演技（動画）を審査、採点し、その合計を各チームの審査得点とする。

4 採点方法

(1) 各審査員が、次の表に掲げる審査項目を担当項目別に採点する。

審査員	手話の正確性・ 分かりやすさ	演出力・ パフォーマンス度	総合的な表現力	合計
ろう者	(30 点満点)	(30 点満点)		(60 点満点)
ろう者	(30 点満点)	(30 点満点)		(60 点満点)
聞こえる人			(40 点満点)	(40 点満点)
聞こえる人			(40 点満点)	(40 点満点)
合計	(60 点満点)	(60 点満点)	(80 点満点)	(200 点満点)

(2) 各審査項目の採点の観点は次のとおりとする。

ア 手話の正確性・分かりやすさ

表情も含め、正確かつ分かりやすく、表現したい内容が理解できるかどうか。

イ 演出力・パフォーマンス度

チームとしての一体感、機知に富み観客を魅了する表現力、ひたむきさがあり、伝えたい内容がしっかりと伝わってくるかどうか。構成や演出がよく工夫されているかどうか。

ウ 総合的な表現力

チームとしての一体感、機知に富み観客を魅了する表現力、ひたむきさがあり、伝えたい内容がしっかりと伝わってくるかどうか。構成や演出がよく工夫されているかどうか。

(3) 演技等が次に該当する場合は、当該各号に記載のとおり失格又は審査得点からの減点とする。失格又は点数の定めのない減点は、審査員の協議により決定する。

ア 差別的表現、わいせつ表現、特定の個人・団体の誹謗中傷、その他公序良俗に反する内容が含まれる場合 失格

イ 第三者の権利を侵害する内容が含まれる場合 失格

ウ 準備に 1 分以上の時間を要すると見込まれる大道具等の使用及び設置 失格

エ 動画制限時間（3 分）の超過 超過時間 10 秒ごとに 10 点減点

（例 5 秒超過 -10 点、17 秒超過 -20 点、22 秒超過 -30 点）

オ 定められた動画の撮影方法に反した場合 20 点減点

※ 演技の始めから終わりまでを通して、演技者の正面でカメラを固定し、演技者の身体全体が見えるよう、一定の倍率で撮影したものとする。カメラを移動させながらの撮影や倍率を変えての撮影はしないこと。

カ その他主催者が不適切と認めた演技又は行為 失格又は減点

5 本選出場チームの選出方法

(1) 地方ブロック枠 (6 チーム)

応募チームを所在地別に 6 つの地方ブロック (北海道・東北ブロック、関東ブロック、中部ブロック、近畿ブロック、中四国ブロック、九州・沖縄ブロック) に振り分け、各ブロックで最終得点の合計が 1 位であったチームを本選出場チームに選出する。

(2) 得点順枠 (13 チーム)

地方ブロック枠選出チームを除き、最終得点の合計が上位の 13 チームを本選出場チームに選出する。

(3) 開催地枠 (1 チーム)

地方ブロック枠及び得点順枠の選出チームを除き、鳥取県内の応募チームで最終得点の合計が上位の 1 チームを本選出場チームに選出する。

(4) 地方ブロック枠内又は開催地枠内で応募チームがないときは、その枠を得点順枠のチーム数に加えることとする。なお、合計得点が同点となり、本選出場チームが得点のみでは決められない場合は、審査員長が決定する。

6 本選での演技順の決定方法

本選に出場する 20 チームを 2 つのグループに分け、予選の最終得点が下位の 10 チームを A グループ、上位の 10 チームを B グループとして、各グループ内で演技順を抽選する。本選では A グループ、B グループの順に演技する。抽選は、予選審査結果発表の場で行う。

7 結果通知及び公表

- (1) 応募チームに対し、予選審査結果 (予選通過又は落選)、最終得点及び審査員評 (審査員名は非公開) を送付する。
- (2) 本選出場チームについて、チーム名、最終得点、応募で提出されたチーム紹介文及び集合写真を大会公式ホームページに掲載する。
- (3) 予選審査結果の発表の様子は、インターネット上でライブ配信する。

8 その他

予選審査結果発表の場で、抽選により、選手宣誓を行うチームを決定する。

本選審査実施要領

1 実施日

平成 27 年 9 月 22 日（火・国民の休日）

2 審査員

審査員は、ろう者 3 名及び聞こえる人 3 名の 6 名とし、このうち 1 名を審査員長とする。

3 審査方法

5 の採点方法に基づき、各審査員が各チームの演技を審査、採点し、その合計を各チームの審査得点とする。

4 演技時間等

(1) 演技の制限時間は 8 分とし、演技前の準備制限時間は 1 分とする。

(ただし、照明や音響など、主催者が設備の調整等を行うのに要する時間を除く。)

(2) 準備は、舞台監督から準備の開始を告げられた時から開始し、出演者の代表者 1 名が手を上げることで準備の完了を舞台監督に報告した時をもって終了する。

(舞台監督は司会者に準備完了の報告を行い、司会者はその報告を受けた後、演技開始の案内を行う。)

(3) 演技は、司会者が演技開始の案内を行った後、ステージが明転したときをもって開始し、生徒の「ありがとうございました。」の発声 又は手話をもって終了する。

(4) 各チームの準備時間及び演技時間の実績は、審査員席に配置したタイムキーパーが計測した時間とする。

(5) タイムキーパーは、演技の制限時間の 15 秒前に演技者及び観客に向けてその旨を表示するものとし、制限時間を超過した場合も同様にその旨を表示するものとする。

(6) 出演者が準備終了の合図を行わない場合及び演技終了の合図を行わない場合は、タイムキーパーが準備又は演技が終了したと判断した時間をもって準備時間又は演技時間とする。

(7) 出演者によるステージ以外の場所での演技は認めない。なお、障がいがあるため出演者が演技を行う際に補助が必要な場合に限り、リズムを示す等、ステージ外から引率者 や生徒等が補助動作を行うことは認める。

5 採点方法

(1) 各審査員が、次の表に掲げる審査項目を担当項目別に採点する。

	手話の正確性・ 分かりやすさ	演出力・ パフォーマンス度	総合的な表現力	合計
ろう者	(30 点満点)	(30 点満点)		(60 点満点)
ろう者	(30 点満点)	(30 点満点)		(60 点満点)
ろう者	(30 点満点)	(30 点満点)		(60 点満点)
聞こえる人			(40 点満点)	(40 点満点)
聞こえる人			(40 点満点)	(40 点満点)
聞こえる人			(40 点満点)	(40 点満点)
合計	(90 点満点)	(90 点満点)	(120 点満点)	(300 点満点)

(2) 各審査項目の採点の観点は次のとおりとする。

ア 手話の正確性・分かりやすさ

表情も含め、正確かつ分かりやすく、表現したい内容が理解できるかどうか。

イ 演出力・パフォーマンス度

チームとしての一体感、機知に富み観客を魅了する表現力、ひたむきさがあり、伝えたい内容がしっかりと伝わってくるかどうか。構成や演出がよく工夫されているかどうか。

ウ 総合的な表現力

チームとしての一体感、機知に富み観客を魅了する表現力、ひたむきさがあり、伝えたい内容がしっかりと伝わってくるかどうか。構成や演出がよく工夫されているかどうか。

(3) 演技等が次に該当する場合は、当該各号に記載のとおり失格又は審査得点からの減点とする。失格又は点数の定めのない減点は、審査員の協議により決定する。

ア 差別的表現、わいせつ表現、特定の個人・団体の誹謗中傷、その他公序良俗に反する内容が含まれる場合 失格

イ 第三者の権利を侵害する内容が含まれる場合 失格

ウ 事前に申請のあった小道具等以外のものを使用した場合 10点減点

エ 演技前の準備制限時間(1分)の超過 10点減点

オ 演技制限時間(8分)の超過 超過時間10秒ごとに10点減点

(例 5秒超過 -10点、17秒超過 -20点、22秒超過 -30点)

カ ステージ以外の場所での演技 10点減点

キ 準備終了の合図(出演者の代表者1名が手を上げる)を行わなかった場合 5点減点

ク 演技終了の合図(「ありがとうございました。」の発生又は手話)を行わなかった場合 5点減点

(例:(準備又は演技)動作が終わった後、約10秒程度経過しても合図がない場合など)

ケ その他主催者が不適切と認めた演技又は行為 失格又は減点

6 表彰チームの決定方法

(1) 優勝、準優勝及び3位は、最終的な得点により決定する。なお、上位3位までの最終得点が同点の場合は、審査員で協議の上審査員長が決定する。

(2) 審査員特別賞は、審査員の協議により決定する。

(3) 全日本ろうあ連盟理事長は、全日本ろうあ連盟賞を決定する。

(4) 日本財団理事長は、日本財団賞を決定する。

7 結果通知及び公表

(1) 大会終了後、各チームに対し、最終得点及び審査員評(審査員名は非公開)を送付する。

(2) 受賞チームについて、チーム名及び最終得点(優勝、準優勝及び3位に限る。)を、大会公式ホームページに掲載する。

IV 大会の観覧

- 1 観覧方法 観覧自由（事前申込み不要）（ただし、小学生以下の者は保護者の同伴が必要）
- 2 入場料 無料
- 3 入場者数 約 500人程度
- 4 注意事項
 - (1) 会場ホールには、車いす利用者用観覧スペースを 15 席程度用意する。
 - (2) 聴覚障がい者が特に見やすいようステージに近く、要約筆記用モニターの前にある席を優先席として聴覚障がい者用に確保する。
 - (3) 車いす利用者用観覧スペースでの観覧、受付での車いすの貸出、ハートフル駐車場スペースの利用、磁気ループの利用、託児サービスを希望する者は、予め申し出ること。
 - (4) 会場駐車場は、ハートフル駐車場及び関係者用としての利用を優先するため、来場はできるだけ公共交通機関を利用することとし、車で来場する場合は、米子市役所駐車場や周辺の有料駐車場に駐車すること。なお、鳥取県西部総合事務所及び同事務所福祉保健局の駐車場は無料で利用できる。また、米子市役所に駐車した場合は、会場にて無料処理（最大 6 時間まで）を行う。
- 5 会場以外での観覧方法

より多くの方に大会を観覧いただけるよう、大会当日、ステージの様子をインターネットでライブ配信する。なお、著作権の関係で、音声を配信できない場合がある。（著作権について所有者の許諾が得られない場合、生放送及び録画放送とも CD 音源を使用して You Tube で配信することができない。）

V 大会運営

1 大会スケジュール

【リハーサル】平成 27 年 9 月 21 日（月・祝） 米子市公会堂（米子市角盤町 2-61）

時間	内容	備考
13:00	リハーサル開始	1 チームあたり 10 分×20 チーム
17:00	リハーサル終了	

【交流会】平成 27 年 9 月 21 日（月・祝） 米子全日空ホテル（米子市久米町 53-2）

時間	内容	備考
18:00	交流会開会	約 250 名、立食ビュッフェ形式、 テーブル指定
20:00	交流会閉会	

【本 選】平成 27 年 9 月 22 日（火・休） 米子市公会堂（米子市角盤町 2-61）

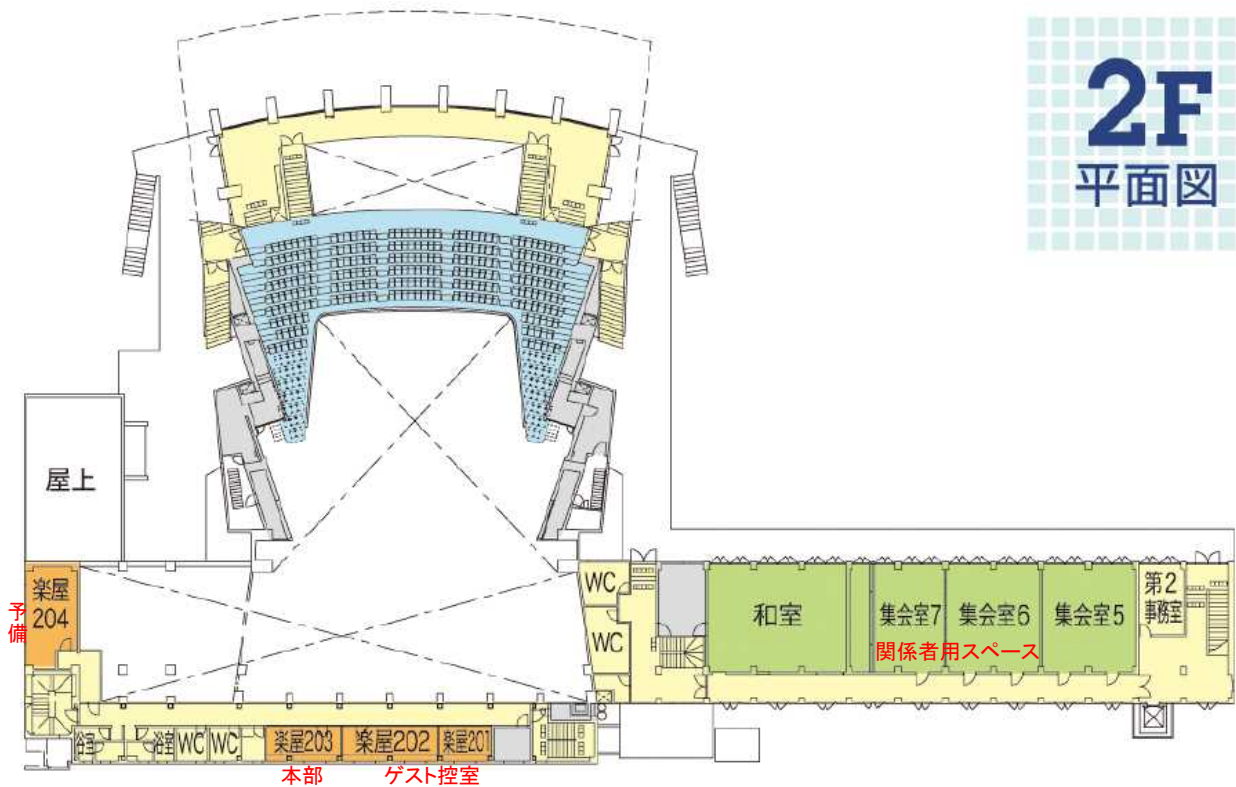
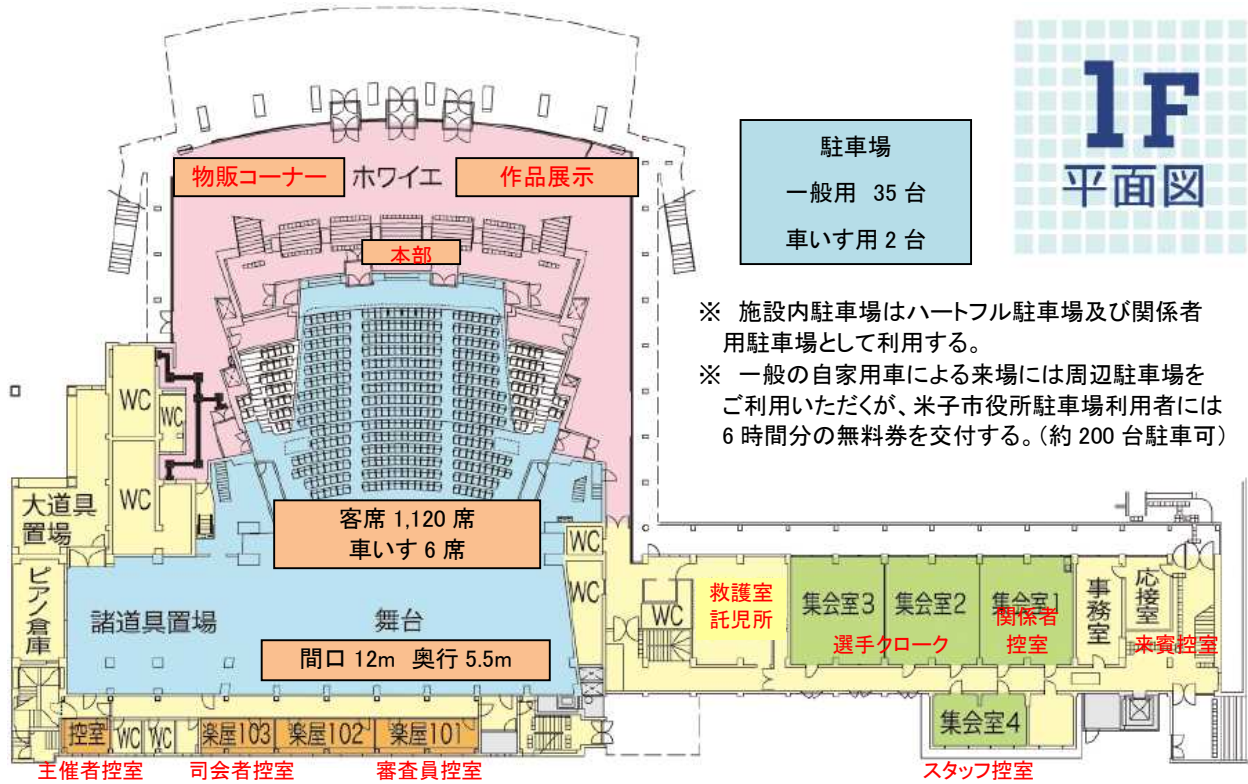
時間	内容	備考
8:30	来賓等受付開始	
9:00	開場、一般来場者受付開始	
9:30	開会式（総合司会：大木浩司氏） 主催者挨拶（実行委員会会長） 主賓挨拶（全日本ろうあ連盟理事長、日本財団理事長） 出場チーム紹介（20 チーム）、優勝旗返還、選手宣誓 審査員紹介、審査基準説明、協賛企業紹介	
10:10	出場チーム演技（司会：早瀬憲太郎氏、今井絵理子氏） A グループ：10 チーム（1 チームあたり 10 分）	
12:00	<昼休憩>	
12:50	出場チーム演技（司会：早瀬憲太郎氏、今井絵理子氏） B グループ：10 チーム（1 チームあたり 10 分） <休憩>13:45～14:00、15:00～15:10	
15:10	ゲストパフォーマー演技（30 分）	
15:45	表彰式 審査員特別賞（賞状、副賞） 第 3 位（賞状、メダル、副賞） 準優勝（盾、賞状、メダル、副賞） 優勝（優勝旗、賞状、メダル、副賞） 全日本ろうあ連盟賞、日本財団賞（賞状、副賞） 審査員長講評 閉会挨拶（鳥取県聴覚障害者協会理事長） 大会公式ソング 歌唱	優勝、準優勝、第 3 位チ ームへ贈るメダル及びそ れ以外の出場チーム及び 応募チームへ贈る記念品 は砂を使ったレリーフを 特注
16:30	閉会	

※本選当日、米子市公会堂内で次の催しを実施する。

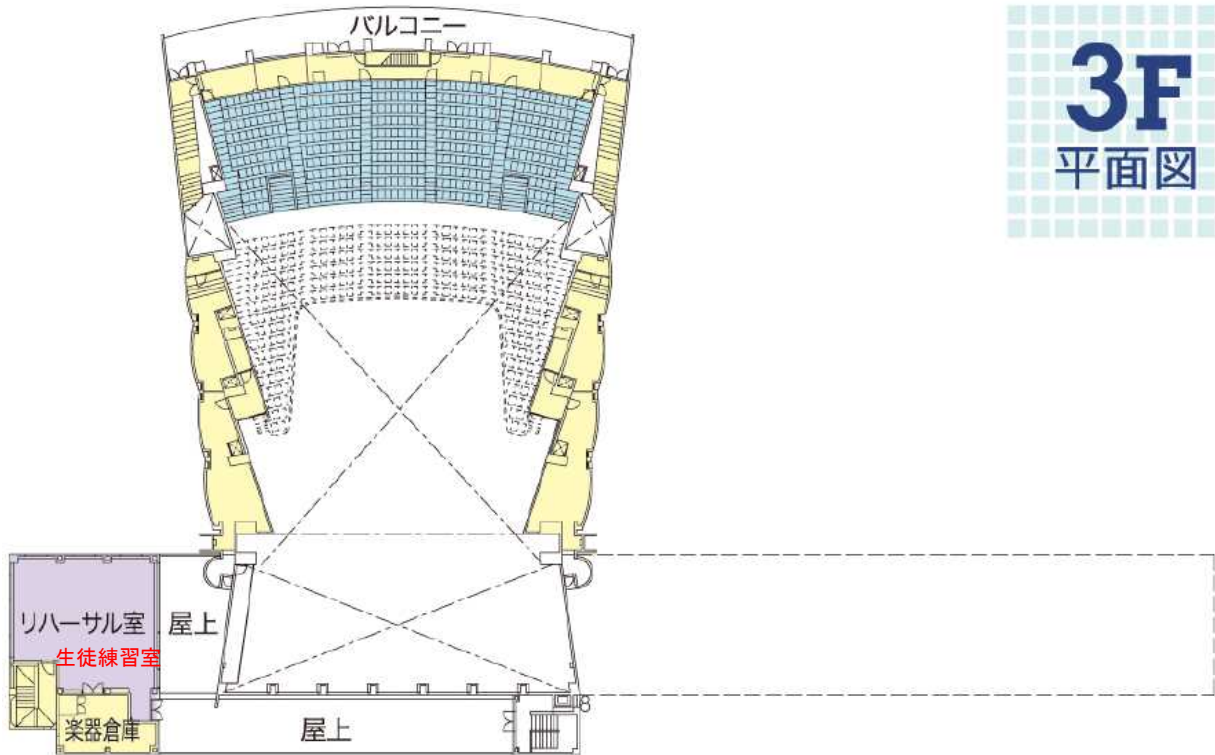
- ・鳥取聾学校写真部作品展（ホワイエ）
- ・大会記念グッズ等の販売コーナー（ホワイエ）
- ・あいサポート・米子マルシェ（前庭）
（障がい福祉サービス事業所、米子商工会議所による飲食物販コーナー）

2 会場計画

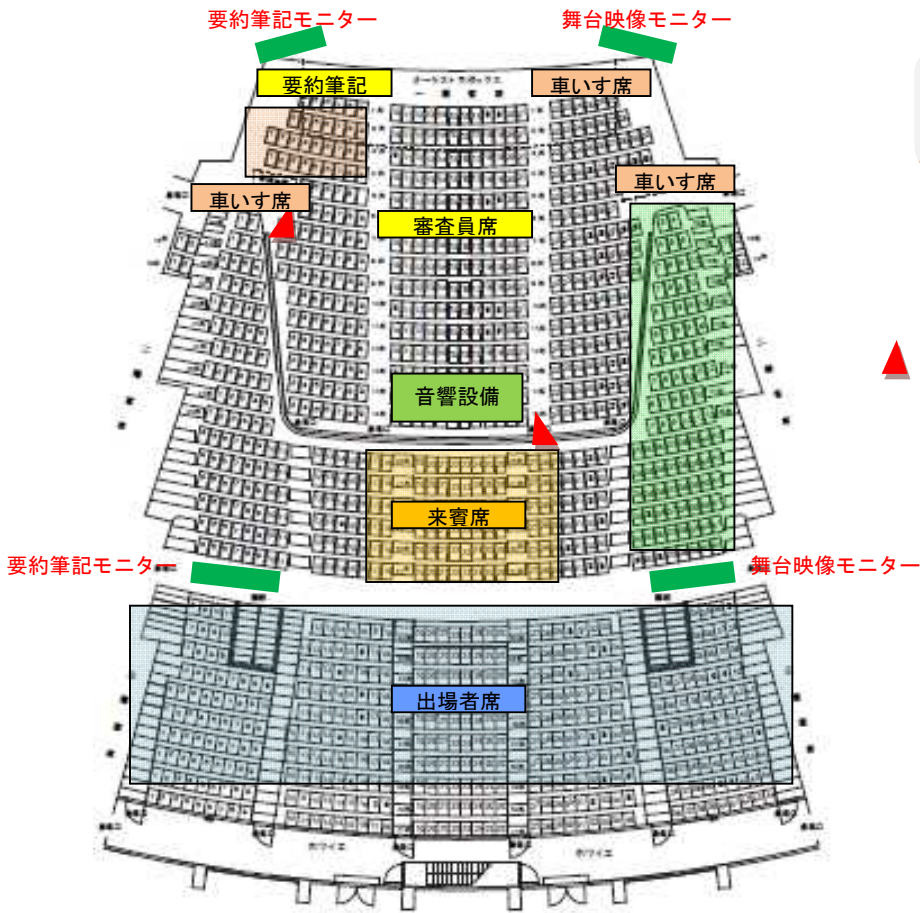
※今回、時点修正した。



3F 平面図



ホール



要約筆記 6 席
審査員席 12 席

一般来場者 506 席

車いす利用者 15 席

優先席 34 席

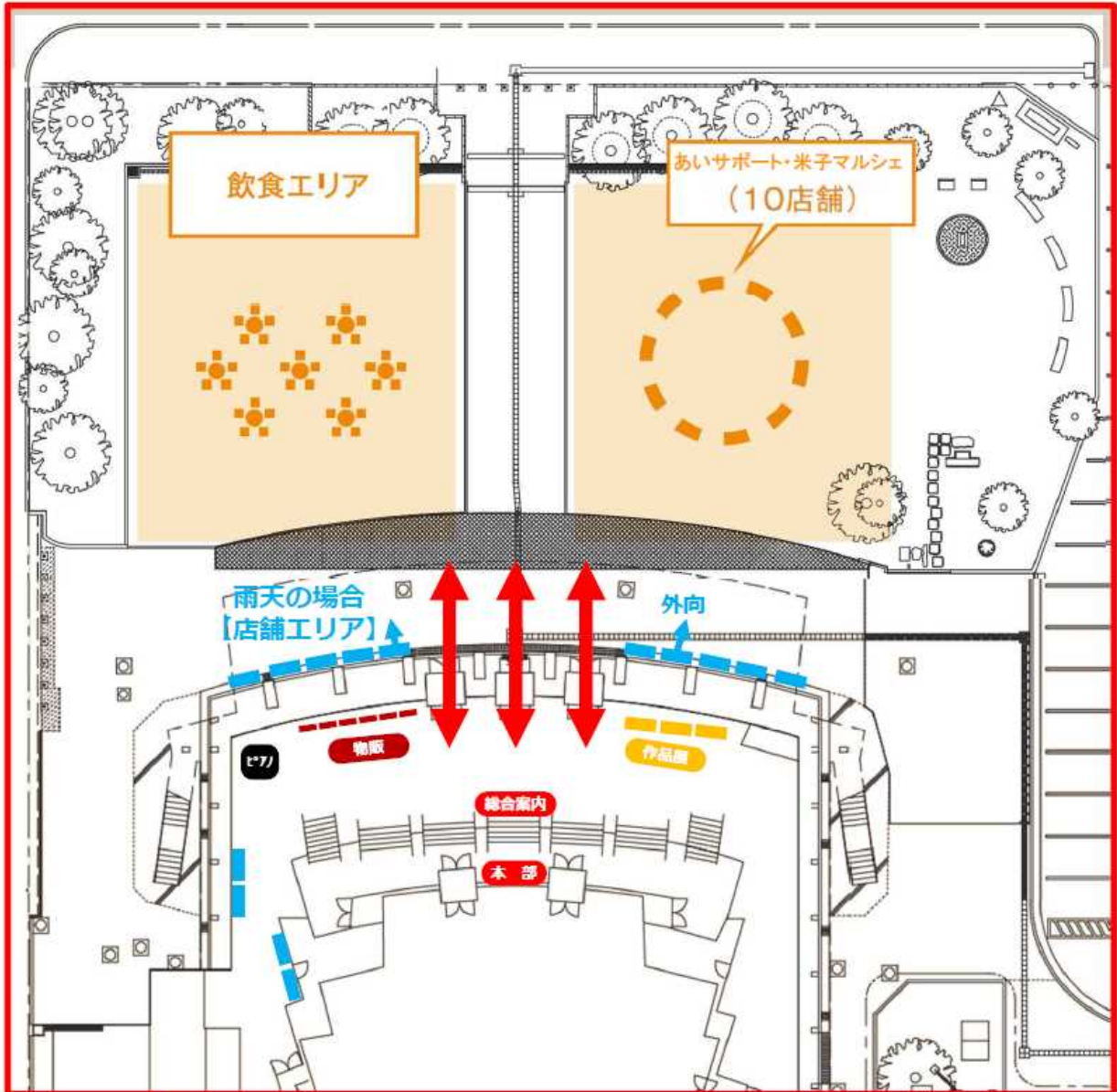
出場者 308 席

来賓・実行委員 72 席

プレス 96 席

区分	固定席	身障者席	備 考
1階席	398席	15席	*座席～3階、4階は土曜開催 オーケストララビッツ専用席は 2階席(1階1～3階の観客専用)
2階席	326席	—	
3階席	396席	—	
合 計	1,120席	6	

中庭エリア、ホワイエ



マルシェ (晴天時 ■ 雨天時 ■)

10店舗

飲食店エリア (晴天時 ■ 雨天時 ■)

テーブル

(雨天時は、物販横に飲食スペースを設置)

作品展 ■

パーティション (1800*900)

物販ブース ■

机

総合案内 ■

机 パーティション1台

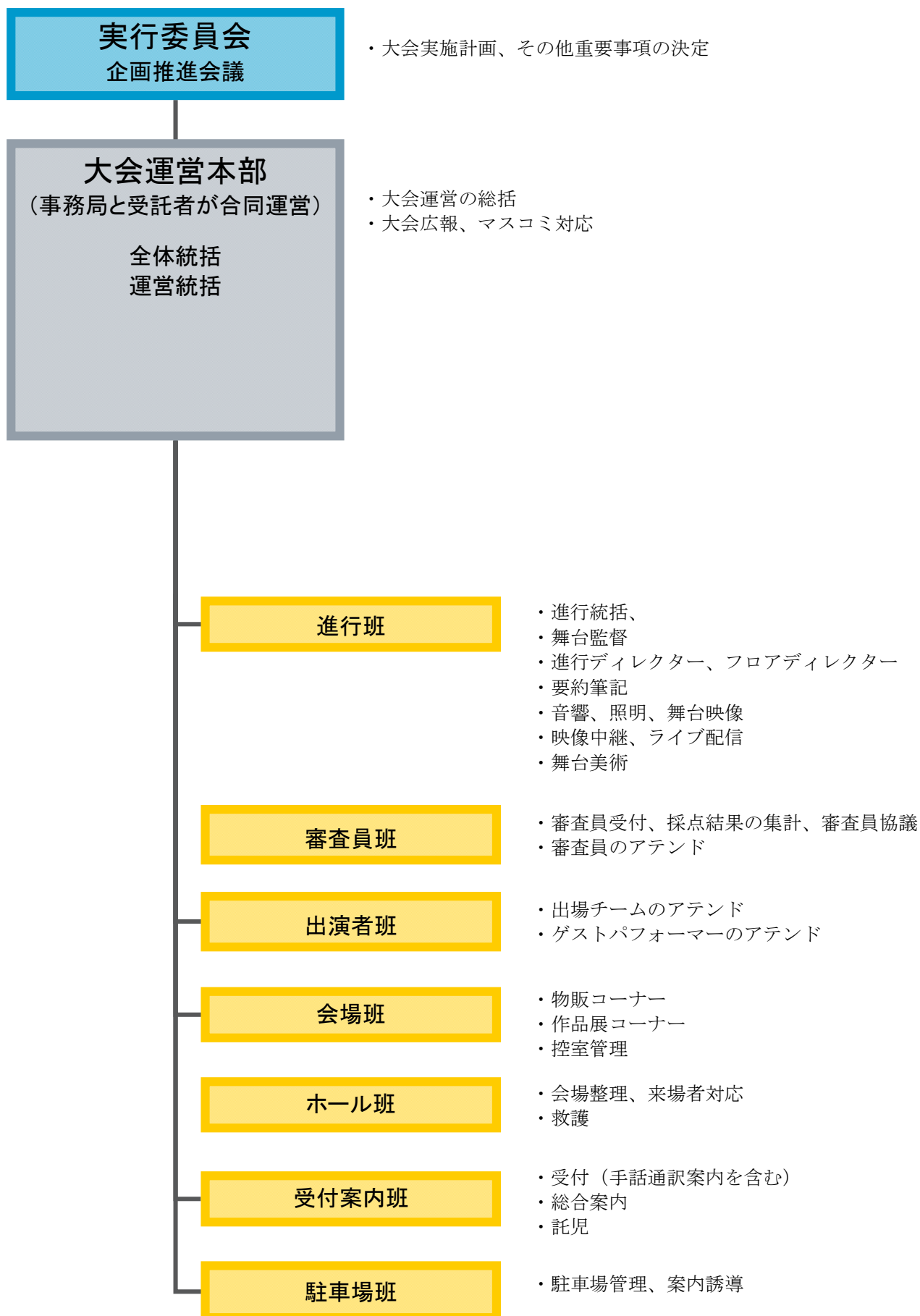
【飲食物】

たこ焼き、かき氷、クレープ、コーヒー・ジュース 等

【物販】

公式グッズ (タオル、キーホルダー等)、県名産品、Tシャツ、花苗 等

3 運営体制



4 イベントバリアフリー

(1) 広報

- ・チラシ及び大会プログラムに音声コードを掲載
- ・点字版の作成

(2) 会場設営

ア 車いす利用者への対応

- ・受付付近に車いすを準備し、希望者へ貸し出し
- ・車いす使用者に配慮した受付カウンターを設置（高さ、奥行き）
- ・車いす使用者の客席を確保（15席分）
- ・会場内に多目的トイレ（車いす対応）あり

イ 聴覚障がい者への対応

※内容を再整理した

- ・受付に手話通訳者を配置、筆談用紙を設置
- ・司会者等の発言を手話通訳
- ・要約筆記（場合により字幕表示）用スクリーンを設置
- ・運営スタッフがメッセージボードを所持

ウ 傷病者への対応

- ・救護スペースを会場内に確保、看護師を配置

エ 育児中の方への対応

- ・託児や授乳ができるスペースを会場内に確保

(3) 駐車場

- ・ハートフル駐車スペースを確保

資料2添付

第2回

全国高校生 手話パフォーマンス甲子園 概要



[表彰式の様子]第1回大会優勝チーム田鶴浜高校(石川県)

主 催 手話パフォーマンス甲子園実行委員会
共 催 鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
特別協賛 日本財団
特別協力 一般財団法人全日本ろうあ連盟

1 目的

ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築くため全国初の「手話言語条例」を制定した鳥取県において「手話パフォーマンス甲子園」を開催し、全国の高校生が手話を使って様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話を身近なものとして理解してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的とします。

2 日時

平成27年9月22日(火・休) 9時30分～16時30分

※交流会 9月21日(月・祝) 18時～20時

3 会場

米子市公会堂（鳥取県米子市角盤町2丁目61）

（一般席 1,120席／車椅子スペース 6席）

※交流会 米子全日空ホテル（米子市久米町53-2）



4 出場チーム

全国の高校生による20チームが出場

※チーム募集期間 平成27年5月11日～7月10日

※予選審査会 平成27年7月29日実施

⇒ 応募のあった47チームから20チームを選出。

5 演技内容

手話を使った歌唱、ダンス、演劇、コント、漫才などのパフォーマンスで、表情も含め手話を正確に使いながら、伝えようとする意志をしっかりと持ち、工夫された演出や構成と豊かな表現力により演じられます。（演技時間は8分以内）



6 表彰

表彰区分は次のとおりです。

- ① 優勝（賞状、優勝旗、メダル、副賞を授与）
- ② 準優勝（賞状、準優勝楯、メダル、副賞を授与）
- ③ 3位（賞状、メダル、副賞を授与）
- ④ 審査員特別賞（賞状、副賞を授与）



7 スケジュール

2月23日(月)	開催要項公表
5月11日(月)	出場チーム参加申込み受付開始
7月10日(金)	参加申込み締切
7月29日(水)	予選審査、予選結果・演技順・選手宣誓チーム発表
9月21日(月・祝)	交流会
9月22日(火・休)	本選

8 後援

内閣府、厚生労働省、文部科学省、一般社団法人日本手話通訳士協会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、朝日新聞厚生文化事業団、社会福祉法人NHK厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、日本演劇教育連盟、全国難聴児を持つ親の会、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK鳥取放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM鳥取、DARAZ FM

9 大会について

○日程(本選)

項目	内容	時間(予定)
開会式	開会、主催挨拶(鳥取県知事)、主賓挨拶(全日本ろうあ連盟石野理事長、日本財団尾形理事長)、出場チーム紹介、優勝旗返還(石川県立田鶴浜高校)、選手宣誓(愛知県立杏和高校)、審査員紹介等	9:30~10:10
演技(午前)	チーム演技(10チーム)	10:10~12:00
昼休憩	(50分間)	12:00~12:50
演技(午後)	チーム演技(10チーム) ※15分間程度の休憩を1度設ける	12:50~15:00
ゲスト	ゲストパフォーマンス(HAND SIGN)	15:10~15:45
表彰式	表彰(優勝、準優勝、第3位、特別賞)、審査員講評(庄崎審査委員長)、主催挨拶(荻原理事長)、優勝チーム演技披露、大会公式ソング歌唱、閉会	15:45~16:30

○来賓一覧(予定)

団体名等	氏名・役職	備考	
全日本ろうあ連盟	石野 富志三郎理事長		主賓
全日本ろうあ連盟	久松 三二事務局長	実行委員会委員	
日本財団	尾形 武寿理事長	実行委員会委員	主賓
鳥取県聴覚障害者協会	荻原 耕三理事長	実行委員会委員	
全国手話通訳問題研究会鳥取支部	福田 幸夫支部長	実行委員会委員	
鳥取県商工会議所連合会	藤縄 匡伸会長	実行委員会委員	

○会場イベント

 あいサポート・よなごマルシェ

会場:前庭広場

時間:10時~15時

内容:障がい福祉サービス事業所等による地元食材を使った加工品等の販売(10店舗)

鳥取聾学校写真作品展、物販コーナー(公式グッズ等)

○その他

ポスター

高級感のあるデザイン



大会テーマソング

「Hand Sign」の「友達」を第2回大会の公式テーマソングに



Hand Sign
(第2回大会のゲストパフォーマンス)



♪ 友達

○司会、審査員の紹介

演技司会



早瀬憲太郎さん

ろう者として、学習塾「早瀬道場」を設立し、塾長としてろう児の国語指導等を行っている。映画「ゆずり葉」の脚本・監督。今年3月まで、NHK「みんなの手話」講師として出演してきた。



今井絵理子さん

1996年SPEEDとしてデビュー。2008年には日本テレビの「24時間テレビ」に出演し、聴覚障がいのある息子と前向きに生きる姿を公表。現在は「ERHIRO」としても活躍中。

総合司会

○大木 浩司さん

NHK鳥取放送局 アナウンサー



審査員

○庄崎隆志さん(審査員長)

演出家・俳優

○貴田みどりさん

女優・ダンサー

○小中栄一さん

全日本ろうあ連盟副理事長

○三浦剛さん

俳優

○水戸真奈美さん

歌手

○佐分利育代さん

鳥取大学名誉教授



庄崎隆志さん



貴田みどりさん

○ゲストパフォーマーの紹介

【Hand Sign】

手話をダンスに取り入れたオリジナルスタイルで観客にメッセージを伝えるボーカル&パフォーマンスグループ。

様々なろう学校、小学校を周り、子どもたちにダンスを手話の楽しさを伝えている。



○出場チーム(20チーム)の紹介

演技順	高校名	都道府県	出場回数	内容
1	松原高等学校	大阪府	2回目	歌
2	杏和高等学校	愛知県	初	演劇・歌
3	大泉桜高等学校	東京都	2回目	演劇・歌
4	熊本聾学校	熊本県	初	落語
5	鳥取城北高等学校	鳥取県	初	朗読・演劇
6	身延山高等学校	山梨県	初	演劇・歌
7	境港総合技術高等学校	鳥取県	2回目	ダンス・歌
8	平塚湘風高等学校 鹿島学園高等学校 神奈川工業高等学校	神奈川県	初	ダンス
9	クラーク記念国際高等学校 東京キャンパス	東京都	2回目	歌・ダンス
10	京都府立聾学校	京都府	初	演劇
11	田鶴浜高等学校	石川県	2回目	演劇・歌
12	真和志高等学校	沖縄県	2回目	歌・エイサー
13	鳥取聾学校	鳥取県	2回目	演劇・歌
14	二俣川看護福祉高等学校	神奈川県	初	歌
15	野津田高等学校	東京都	初	歌・ダンス
16	石狩翔陽高等学校	北海道	2回目	演劇
17	三重高等学校 松阪工業高等学校 相可高等学校	三重県	2回目	ダンス
18	奈良県立ろう学校	奈良県	2回目	演劇
19	三井高等学校	福岡県	2回目	歌
20	久居高等学校	三重県	初	ダンス

10 交流会について

○概要

- ◆日時 : 平成27年9月21日(土・祝) 午後6時～午後8時
- ◆会場 : 米子全日空ホテル(大宴会場 飛鳥)
- ◆出席者 : 250人(予定)

宮様		
来賓等	20人	全日本ろうあ連盟、日本財団、鳥取県議会議員等
出演者(選手等)	200人	選手、引率
出演者(司会等)	10人	司会者、審査員等
主催者等	20人	鳥取県、鳥取県聴覚障害者協会、 手話パフォーマンス甲子園実行委員会委員 等

- ◆形式等 : 立食(テーブル指定)、ビュッフェ

○日程

時間	内容	詳細
18:00	司会挨拶	司会者
18:03	開会	司会者
18:04	主催者挨拶	平井 伸治鳥取県知事
18:09	乾杯	斉木 正一鳥取県議会議長
18:12	歓談	(参加者間の交流)
18:38	出場チーム抱負	司会者より、大会の演技司会を紹介 演技司会による出場校へのインタビュー
19:03	歓談	(参加者間の交流)
19:20	ゲスト(手話漫才)	萬屋手話本舗ぷ〜&み〜企画
19:40	歓談	(参加者間の交流)
19:52	審査員長からのエール	審査員長 庄崎 隆志氏
19:55	主催者挨拶	手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 委員長 松田 佐恵子

○テレビでの放送(予定)

5月10日放送 NHK Eテレ「みんなの手話」
鳥取聾学校が出演
第1回大会の演技を披露



9月上旬放送予定
BSS「週刊とりリンク」



9月中旬放送予定
日本海テレビ「スパイス」
(告知コーナーで大会を紹介予定)



11 事務局

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220番地
手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局(鳥取県庁障がい福祉課内)
電話:0857-26-7682 FAX:0857-26-8136 Eメール:s-koushien@pref.tottori.jp



HANDSIGN SCHOOL PROJECTとは？



手話ダンスグループ「HANDSIGN」が中学・高校を訪れ、音楽やダンスを通して、エンターテインメントの角度から手話の楽しさ、大切さを学生の皆さんに伝えるプロジェクトです。

「HANDSIGN」の地元、神奈川県でスタートし、神奈川県だけでなく、全国へ広がっています。

今回は、9月22日（火）米子市公会堂で開催される、第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園で、公式テーマソングを担当していることから、大会のPRも兼ねて、初めて、鳥取県で「HANDSIGN SCHOOL PROJECT」が開催されます。

日時：平成27年9月10日（木）

開場：16:00 （開催時間については、学校と協議中）

開演：16:30～17:30（最大延長 17:45）

場所：鳥取県立米子西高等学校 体育館（米子市大谷町200）

内容：HAND SIGNによる、歌・ダンスパフォーマンス/手話のレクチャー

（手話パフォーマンス甲子園の公式テーマソング「♪友達」をレクチャーし、参加者と一緒に歌い、甲子園への参加を呼びかけます）

対象：米子西高生徒および、近隣の高校生徒。（どなたでも可）

定員：100人前後（見込み）

参加：無料

■ステージ構成

HANDSIGN SCHOOL PROJECT



HAND SIGN

手話を取り入れた男性パフォーマンスアート集団。ニューヨークのアポロ・シアター『アマチュアナイト』で2度の優勝。

「DREAM STAGE」は、デフリンピックの公式ソングともなった。

「はなまるマーケット」や「24時間テレビ」などTV出演も多数あり、現在は、NHK「みんなの手話」でレギュラー出演中。

◎メンバー

- TATSU (タツ)リーダー・ボーカル、パフォーマー
- SHINGO (シンゴ)ボーカル、パフォーマー
- ROY (ロイ)パフォーマー
- JiN (ジン)パフォーマー
- OzA (オザ)パフォーマー
- KOUSUKE (コウスケ)マネージャー

■ステージ構成

時間	ステージ構成	備考
15:30	開場	生徒入場
16:00	開演	開演
		【前半】ダンス中心 【後半】手話レクチャー
		公式ソング「♪友達」を手話付でみんなで歌う
17:00	終了	終了後、写真撮影へ誘導

■企画1 イベント終了後、生徒たちと写真撮影。

■企画2 イベントの様子は、日本海テレビで取材。ニュース・スパイスで放送を予定。



放送予定：9月19日（土）9:25～

内容：手話パフォーマンス甲子園の紹介として

資料 4

第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に係る今後の日程について

平成27年8月31日現在

日程	内容	備考
平成27年3月	大会チラシ送付	全国の高等学校、特別支援学校
	大会チラシ、ポスター送付	<ul style="list-style-type: none"> ・全都道府県 (障がい福祉担当、教育委員会) ・各都道府県全国ろうあ連盟加盟団体 ・県内各市町村 ・県内公共施設 等
平成27年5月11日	参加申込み受付開始	
平成27年6月15日	JR 主要駅でのデジタル広告開始	鳥取駅、米子駅、松江駅、出雲市駅
平成27年7月3日	第1回企画推進会議	実施計画、申込み状況、 予算・決算、準備状況
平成27年7月10日	参加申込み期限	47チーム(50校)の応募あり
平成27年7月29日	予選審査会	とりぎん文化会館 本選出場20チームを選出
平成27年8月4日	予選審査結果通知	
平成27年8月31日	第2回企画推進会議	予選審査結果、実施計画、準備状況
平成27年9月10日	ハンドサイン スクールプロジェクト	米子西高校
平成27年9月21日	交流会、リハーサル	交流会：米子市公会堂 リハーサル：米子全日空ホテル
平成27年9月22日	本選	米子市公会堂
平成27年12月上旬	実行委員会総会	開催結果、大会総括、専決処分の報告、 来年開催日程決定、補正予算
平成28年2月上旬	第3回企画推進会議	開催結果、第3回大会基本計画、 開催要項

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 出席者名簿
(平成27年度第2回)

役 職	所属 ・ 役職名	氏名 (敬称略)	出 欠 (代理：敬称略)
委員長	鳥取県福祉保健部長	松田 佐恵子	出
委 員	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 福祉・労働委員会委員長	諸家 紀子	出
	鳥取県手話通訳士協会	森原 早百合	出
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部	国広 生久代	出
	鳥取県手話サークル連絡協議会	田中 優子	出
	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 専務理事	杉本 新二	出
	鳥取県教育委員会事務局教育次長	小椋 博幸	出
	鳥取県高等学校長協会会長	藤原 辰広	出
	鳥取県私立中学高等学校長会長	山内 晃	出
	鳥取県立鳥取聾学校長	藤田 則恵	出
	一般財団法人全日本ろうあ連盟 青年部長	廣田 喜春	出
	国立大学法人筑波技術大学 教授	大杉 豊	出
事務局	障がい福祉課長	小林 真司	\
	障がい福祉課社会参加推進室 室長	鈴木 俊一	
	障がい福祉課社会参加推進室 課長補佐	岡村 弘美	
	障がい福祉課社会参加推進室 係長	安永 孝文	